

# 教育目標及び学校運営の方針

## (1) 学校教育目標

人間性豊かで、すぐれた創造力とたくましい実践力を身に付けた健全な生徒の育成

- 「真理を求める」心を育てる
- 「強い心とからだ」を育てる
- 「たくましい実践力」を育てる
- 「美しい心」を育てる

## (2) 本年度の重点目標

夢や目標に向かって自己を高め、共によりよく生きようとする生徒の育成

- [目指す生徒像]
- ・心身を鍛え、困難を乗り越えることができる生徒
  - ・物事に主体的に取り組むことができる生徒
  - ・相手のことを考えて行動できる生徒

## (3) 学校運営の方針

◇ 高い組織力をもった教職員集団であるために

- ① 重点目標達成のために、全教職員の力、創意を結集し、組織一丸となって教育指導を実践する。
- ② 以下の項目を学校生活の柱とし、明確かつ具体的な指導を実践する。
  - ・時間を大切にする
  - ・環境美化に努める
  - ・進んで挨拶する
  - ・継続的に家庭学習に取り組む
- ③ 報告・連絡・相談体制を充実させ、チームでのタイムリーな対応を実践する。

### ① 生徒、教職員共に安心して活動できる温かい環境の構築

- ・教師が範となり、温かい人間関係を基盤とした思いやりのある言語環境をつくる。
- ・清掃活動の充実、整理・整頓の心掛け、掲示の工夫等、明るく潤いのある環境をつくる。
- ・危機管理意識をもち、日頃から安全点検・環境保全に努める。
- ・教職員間の話し合い、語り合いを大切にし、OJTの日常化を図ると共に、温かい職場の雰囲気を作る。

### ② 確かな学力を育む学習指導の充実

- ・多様な学習活動を工夫して、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。
- ・主体的に学ぶことができるよう、指導過程、指導方法を工夫する。
- ・生徒の実態を把握し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導に努める。
- ・家庭での時間を大切にし、家庭学習の習慣が定着するよう工夫する。

### ③ 生徒の主体性を引き出し、自己管理能力を育てる指導の充実

- ・生徒会活動や学級の係活動等において、一人一人の創意を生かす場と機会をより多く取り入れるよう努め、達成感や存在感を体感させる。
- ・道徳の時間の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通して道徳性を養うよう努める。
- ・時間を守る指導を通して、自ら考えて行動できる生徒の育成に努める。
- ・キャリア教育、エネルギー教育との関連を図り、横断的な教科指導を通して、主体性、自己管理能力等の育成に努める。

### ④ 家庭・地域等との連携

- ・地域と連携して環境教育やボランティア活動を推進するなど、地域に根ざした諸活動の充実を努める。
- ・家庭との情報交換を密にして、生徒理解に努めるとともに、教師と生徒、保護者との温かい関係づくりに努める。
- ・小学校との連携を進め、家庭、地域、学校が一体となって児童生徒の健全育成に努める。

## (4) 地域の特徴と生徒の実態

- ① 天平時代から歴史に名をとどめる由緒ある地域であり、般若野の古戦場をはじめ、「弓の清水」の故事は有名である。校区は主として田園地帯で、世帯数約1800、人口約6800である。近年は、地区商業施設の近代化と住宅団地の造成が相次ぎ、都市化の傾向がみられる。
- ② 天然記念物の「アシツキ」と「ゲンジボタル」「トミヨ」等で有名な当地域では、中田地区記念物保存会を中心として、地域ぐるみで保護と環境維持に努めている。本校にはこれら記念物の保護のための施設や郷里の泉が設置されており、科学部の生徒は「ゲンジボタル」の増殖と生態に関する研究に取り組んでいる。
- ③ 保護者や地域の方々の学校教育に対する関心は高く、学校行事や部活動等に対する理解も深く、協力を惜しまない。生徒会が行う「さわやかあいさつ運動」「クリーン作戦」「エコキャップ運動」等は、地域の協力を得ながら継続して行っている。また、PTA活動である資源回収には、多くの生徒が進んで参加し、生徒・保護者・地域の協働体制での取組となっている。
- ④ 生徒は、全般的に明るく、素直で、物事に真面目に取り組む。一方、校区の小学校は中田小学校一校であり、人間関係や友達に対する見方が小学校から変わらず固定されがちで、新しいことに挑戦したり、自分の思いを表現したりすることが苦手な面がある。  
部活動では、外部指導者の熱心な指導もあり、少人数ながらも上位入賞を目指して意欲的に活動している。文化活動や学習面においても努力を惜しまず、こつこつと粘り強く取り組む生徒が多く、本校の地道な校風を形成している。
- ⑤ 昨年度の学校評価から、本校生徒のほとんどが、学級の諸活動や学校行事、部活動等に仲間と協力して取り組み、学校生活に満足していることが分かった。学習については、「家庭学習を毎日60分以上行うことができる」について、全学年とも目標を達成した。しかし、「授業で、自分の考えをまとめたり、発表したり、質問したりしている」では全学年で6割未満と評価が高くなかった。  
また、昨年度、自閉症・情緒障害特別支援学級、知的障害特別支援学級の生徒や、普通学級で学ぶ生徒の中にも、特別な支援を必要とする生徒がおり、個に応じた指導や支援の必要性が高くなっている。  
そこで、本年度は「主体的に学習に取り組み、分かる・できる喜びを味わうとともに、みずから考える・みずから取り組む態度を育てる学習指導の在り方」を研修主題とし、個に応じた指導に努め、授業において「分かった」「できた」という体験を大切にしながら、それを基に生徒の学習意欲を高め、さらに主体的な学習につながることを求めて指導を進めていく。アクションプランにおいては、「時間」と「清掃」を中心に、授業開始時刻や完全下校時刻、清掃終了時間、自分の役割以外、ゴミやホコリがたまりやすい場所といったように、具体的な場面や内容を示しながら、指導を進めている。